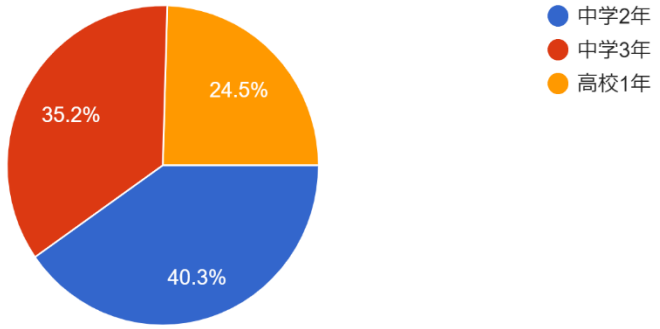
2019 年度海洋教育アンケート結果　生徒（現中２，現中３，現高１）

有効回答数： 489 件

＜全員＞

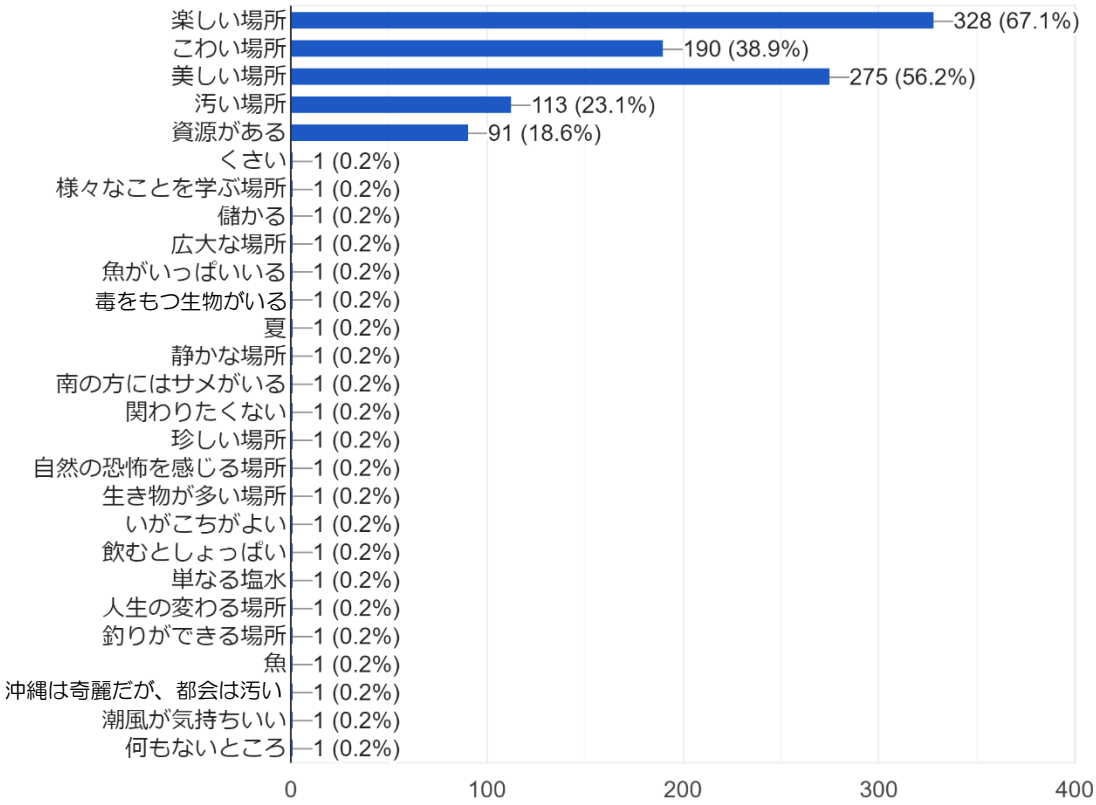
学年

489 件の回答

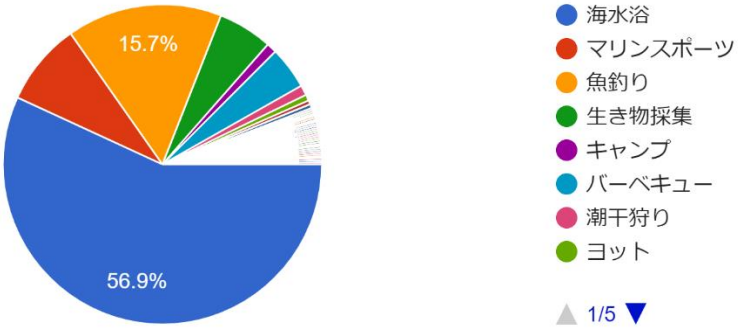


幼い頃からの今まで「海」という場所にどんなイメージを持っていますか。（複数回答可）

489 件の回答



学校外で、最も印象の残る海に関する思い出を１つあげてください。
489 件の回答

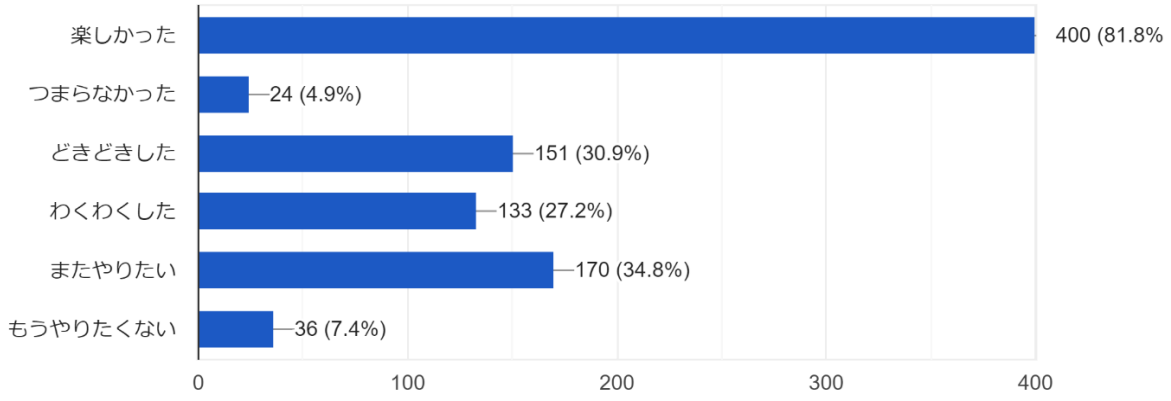


海水浴 56.9%、魚釣り 15.7%、マリンスポーツ 8.4%，生き物採取 5.5%，バーベキュー4.3%，キャンプ 1%、潮干狩り 1%、ヨット 0.6%、その他 6.6%

＜学年別＞

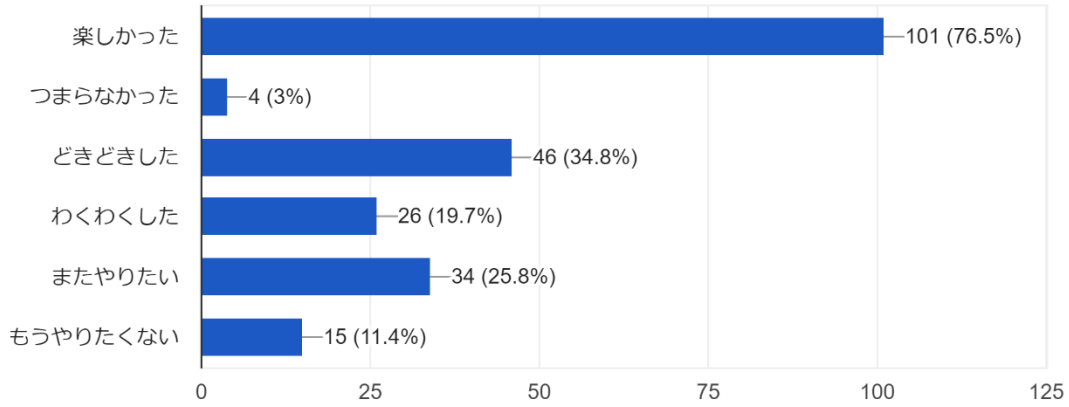
（中２，中３，高１）OPヨット実習の感想を次の中から選んでください。（複数回答可）

489 件の回答



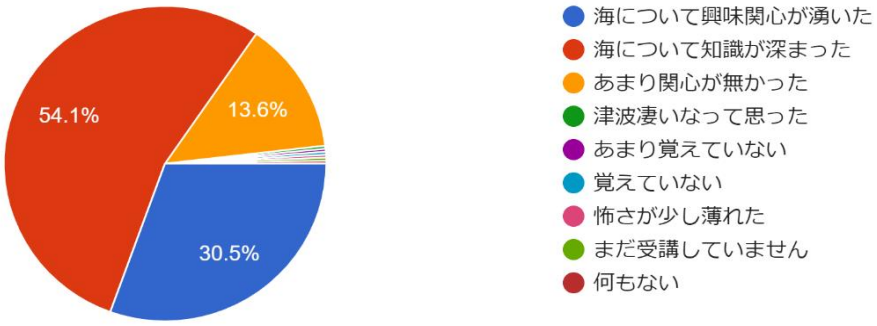
（高１のみ）遠泳実習の感想を次の中から選んでください。（複数回答可）

132 件の回答



（中３，高１）海洋に関する学習の感想を次の中から１つ選んでください。

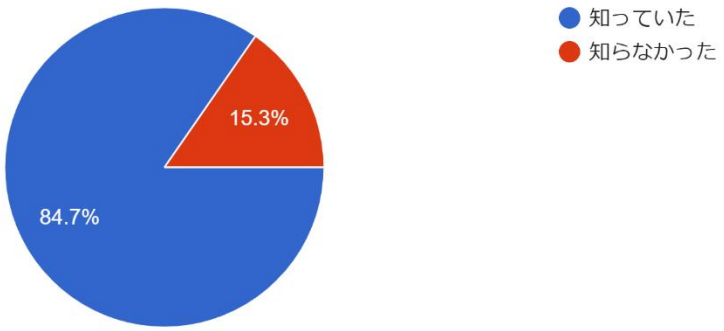
331 件の回答



＜全員＞

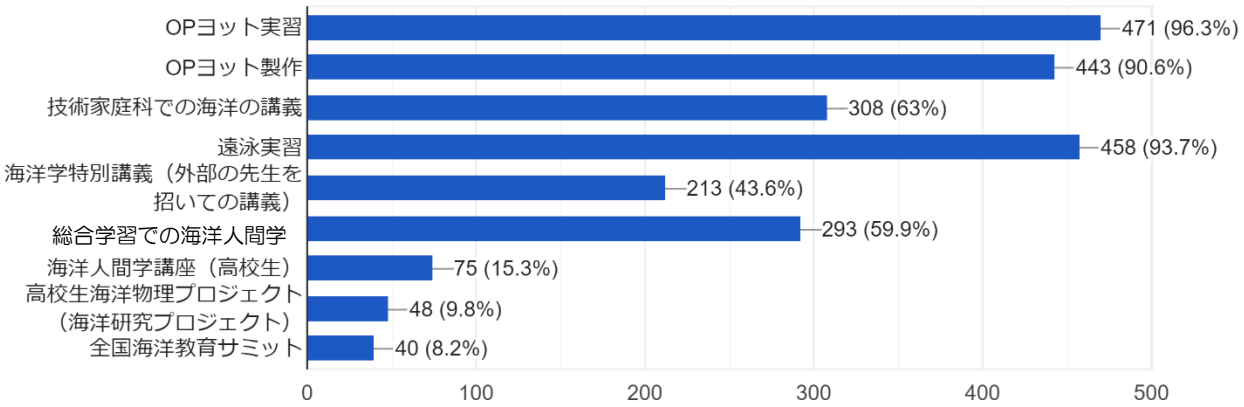
逗子開成には、海洋教育があることを中学入学前から知っていましたか。

489 件の回答



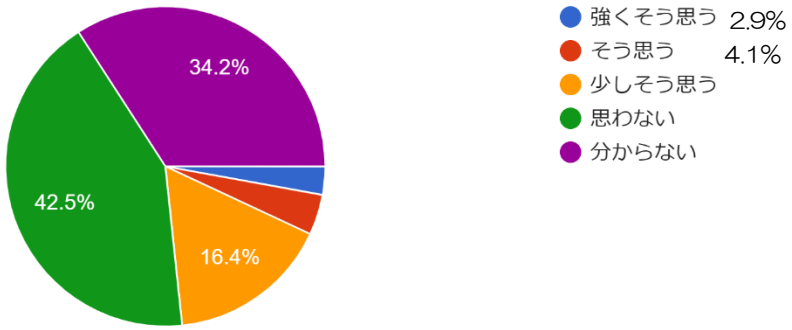
逗子開成の海洋教育の学習で知っているものを選んでください。実際に体験していなくても構いません。（複数回答可）

489 件の回答

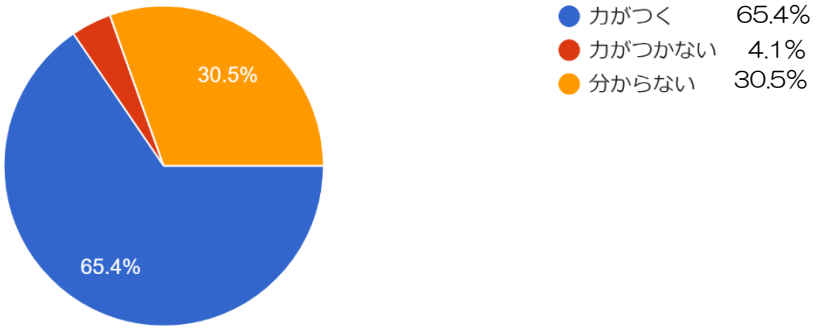


将来、海に関係する仕事に就きたい、海に関係する研究がしたいと思いますか。

489 件の回答



逗子開成の海についての学びから、自分には何か力がつくと思いますか。
489 件の回答



あなたにとって「海」はどんな存在ですか。（生徒の回答一部抜粋）

○　海は、人を楽しませたり、感動させたりするものである一方、津波などのような危険もある存在。

○　地球環境の大きな割合を占め、豊かな自然環境と食をもたらしてくれる重要な存在。

○　底が見えない怖いイメージを子供のころから持っていたけれども、ヨット実習や遠泳をしたことによって知識と経験を得たので、関心を持てる存在になりました。

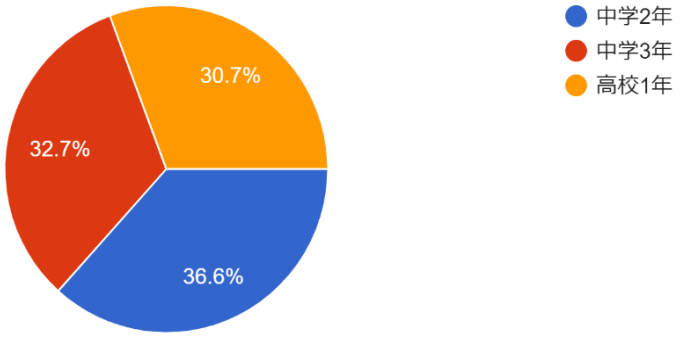
○　自分の名前の由来が海のような広い心を持つことなのですごく親近感がある。

＊この他、神秘的な存在、未知の存在、ロマンチックな存在、癒しの存在などの回答がありました。

2019 年度海洋教育アンケート結果　保護者（現中２，現中３，現高１）

有効回答数： 308 件

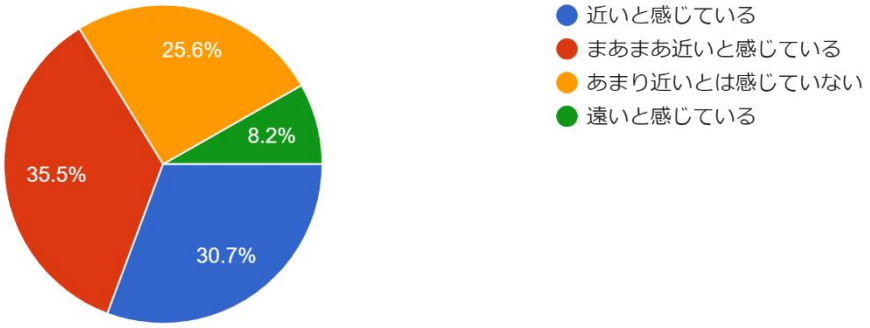
ご子息の学年



ご自宅の地域

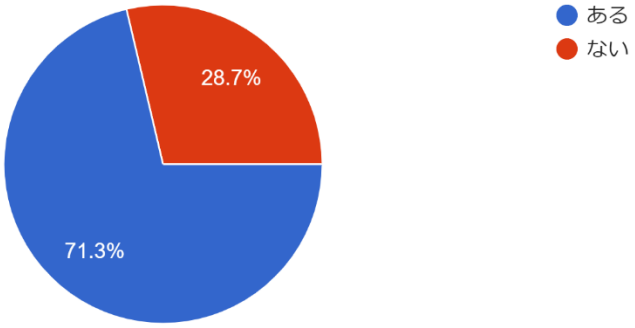
横浜市 59.4%、川崎市 3.7%、横須賀三浦地域 13.1%、県央地域 2.6%、湘南地域 17.6%
県西地域 2.3%、東京都 1.1%、その他 0.3%

ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。



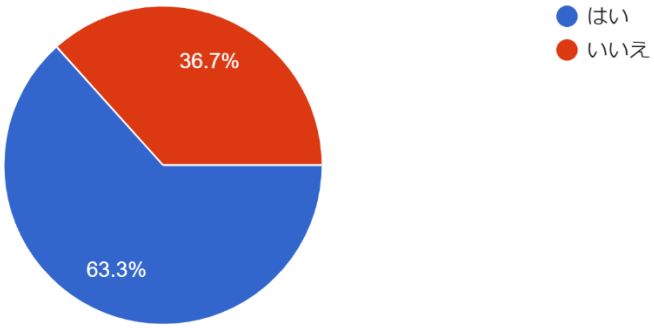
これまでに学校のOPヨット実習を見学されたことはありますか。

352 件の回答

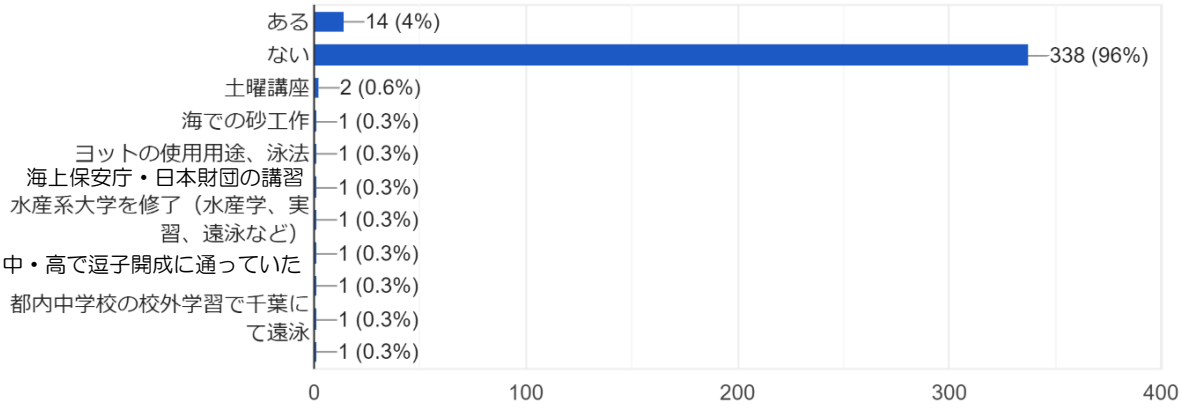


遠泳実習を見学されましたか。（高１の保護者のみ）

150 件の回答

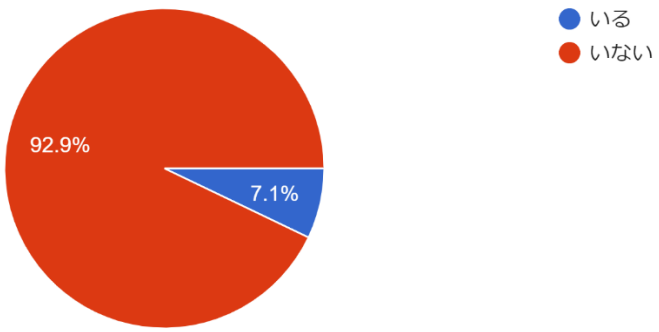


ご自身が学校で海洋教育を受けられたご経験はございますか。「ある」とお答えの場合、「その他」に具体的な内容を簡単にお教え下さい。



海洋に関係するお仕事に就かれている方が、家族やご親戚にいらっしゃいますか。

352 件の回答



海洋教育がご子息にどのような成長をもたらすとお考えですか。（保護者の回答一部抜粋）

○　自己中心的な考え方ではなく、他者との関係、繋がりを意識して物事を広く捉えることができるようになるのではないでしょうか　自然の偉大さや恐ろしさも直接感じることができると思います。独りではできないこと　個人ではできないことを OP 実習、遠泳を通して学んでいると思います。

○　元々、深海生物に興味を持っていましたが、海洋教育の学習後はさらに分野及び視野を広げる機会になっていると思います。また机上の学習にとどまらず、遠泳を経験する機会に恵まれ、級友と励まし励まされ泳ぎ切る事、海の怖さを知ることは自然への畏敬の念を少なからず抱く経験につながり現代社会において大切な体験と思います。

○　自然から教わる神秘、原理を通して、好奇心、思考力が培われ、将来の視野が広がると考えている。また、昨今、自然に触れ合う機会が減っていると感じているので、海洋教育で触れ合う機会を得られるのは非常にありがたいと考えています。

○　大学教授や JAMSTEC の研究員の方などの講義がある日は張り切って登校していきました。その日は目を輝かせ、講義の余韻に浸っているような顔で帰宅してきました。息子にとっては好きなものが目の前にあるというとてもシンプルなことだけど、何ものにも代え難い大切な出会いです。この環境から息子は何を学んでいくのか、これからも見守っていきたいと思っています。

○　自然の中で己の力だけで物事を為しとげるということで精神的に鍛えられ、普段の生活の中で感じるのとはまた違った達成感、充実感を得、それが次に挑戦する原動力になるのではないかと考えます。一緒に体験した仲間と喜びや苦労を分かち合うことで絆が深まり、人を思う気持ちも育つのではないかと考えます。机上では学べない、素晴らしい成長が見込まれると考えます。

逗子開成中学校・高等学校　海洋人間学評価報告書

東京大学大学院教育学研究科付属海洋教育センター
特任研究員　加藤大貴さん

①OP ヨット製作・帆走実習

・本実践は「広大な環境のもとで生きる人間」という、人間存在の根本的在り方を生徒が海の上で感じ取り、そこで養われた感覚や思考を今後の生き方の根本に据えることができるよう、企図されたものといえる。また、そうした学びの条件（自分が乗るためのヨット）を学校が全て用意するのではなく、技術の授業の中で自身で整えていく点にも、本実践の大きな特徴がある。本実践では毎年帆走実習に対して振り返りレポートを課しており、自分の認識やそれを表現する力の発達の過程、人間を取り巻く広大な環境としての海とのつながりの感覚が研ぎ澄まされていく様子を教員や生徒自身が反省的に見ることができるため、海上での学び、そこで得た力を一過性の経験に終わらせることのない取り組みがなされているといえる。

・安全面では、ロープワークや安全なヨットの乗り方など海に一人で出るうえで必須の知識を学んだうえで、製作、帆走実習に至るまで同実践を熟知した教職員が常に伴走するため、万全の体制が取られているといえる。

・今後は、「ヨット製作」の段階での学びを深めることや、振り返りレポートの更なる活用にも期待したい。特に後者については、高校進学後に改めてそのレポートを読み返し、ヨットでの帆走とその意義を改めて言語化したり、教員、OB を交え意見交換、議論する場を設けてもよいのではないか。より豊かな言語能力を手に入れたのちに過去の経験を語りなおすことで、自身の人格を反省的に深める契機となるのではないか。

②遠泳実習

・本実践は、生徒個人の身体面での基礎体力や泳力、自己信頼はもちろんのこと、学年全員で「完泳」という同一の目標を達成するという取り組みを通して、集団としての効力感、共助、相互承認の関係性を涵養することをねらったものといえる。実習後には遠泳を通じた成長について生徒へのヒアリングを行っており、個人レベル、集団レベルで様々な感想が述べられている。それらの記述からは、生徒の泳力の多寡によって述べられる感想の内容が異なること、しかし誰もが遠泳を通じて自己を大きく変容させていることが示されており、学校独自の環境を活かした力量形成の契機となっている実践といえる。

・中１・２で実習に向けて校内プールでの練習を繰り返したのち、中３では実際のフィールドである海での練習を行っている。遠泳本番では実際の高校の水泳部、教員、ライフガードが生徒に並走し、救助ボートも生徒の周囲を囲んでいる。水への慣れ、体力を時間をかけて向上させ、複数の安全策が取られた中で実習を実施しているため、安全面での問題はないといえる。

・今後は、本実践が集団としての力量形成に対して持つ意義をより詳細に分析するために、学年集団やクラス集団が遠泳前後でどのような関係性の質的変化を起こしたかについて、教員や生徒の語りを記録できるようになるとよいのではないか。

③海洋教育講義

・学校にとって身近な海という環境を科学的探究の場とする海洋研究者による講義を通して、教科学習が将来にどのようにつながるのか、身近な環境や事象をどのように探究していくのかを知ることで、海を切り口としたキャリア意識（興味のある学問分野への意識）の醸成や、探究の手立てについての考察を促す実践である。①②の実践が主に海を主観的・感覚的に体験するという迫り方だとすれば、本実践は海を客観的・論理的に知覚するという迫り方に重きを置いている。本実践ののち、科学的に探究したいテーマとして①②で体験された事柄を挙げる生徒も多い。ゆえに本実践は、実体験をもとにした探究の力を育むものとして、教育課程の締めくくりを担う重要な役割を果たしているといえる。

・今後の探究活動の本格化を考えると、生徒各人の探究活動を促す学年共通の場として本実践がどのような役割を果たせるのかを、再度検討していくとよいのではないか。学年の中には海に強い関心を持つ生徒とそうでない生徒、探究を手際よくこなす生徒とじっくり進める生徒が当然おり、そうした生徒が同じタイミングで本実践を経由することになる。その時、本実践から「方法論として学べること」「内容面で参考になること」など、生徒各人の探究活動の進捗や方向性に応じ複数の意義を取り出せるよう、教員間の意思疎通や生徒との目的共有を行っておくことが重要であろう。